令和３年度　看護進路相談会　実施報告

公益社団法人　宮崎県看護協会

１．　目的

保健・医療・福祉の分野でますます看護の要請が高まっており、優秀な人材の確保が重要となっている。そこで、中・高校生および保護者、進路担当の先生を対象に、看護学校に関する情報を提供し、適切な進路選択の一助となることを目的とする。

２．　日時：令和３年 ７月 22 日（木・祝）

３．　会場：宮崎市民プラザ　４階ギャラリー（宮崎市）

４．　内容：看護の講演、県内の各看護学校別の説明・個別相談、５年一貫校資料提示

５．　プログラム

第１部	第２部	内　　容	
9:00～9:30	13:00～13:30	受付（宮崎市民プラザ　４階ギャラリー）	
9:20～	13:20～	オリエンテーション	宮崎県看護協会
9:30～	13:30～	開会・挨拶	宮崎県看護協会　会長
9:35～9：50	13:35～13:50	**看護教育について**	宮崎県福祉保健部　医療薬務課 看護担当　副主幹　鴇　香織　氏
9:50～10:00	13:50～14:00	**看護学校自己紹介**	● 宮崎県立看護大学 ● 宮崎大学医学部看護学科 ● 国立病院機構都城医療センター附属看護学校 ● 藤元メディカルシステム付属医療専門学校 ● 日南看護専門学校 ● 宮崎医療福祉専門学校看護学科 ● 九州保健福祉大学総合医療専門学校看護学科 ● 小林看護医療専門学校 ● フィオーレＫＯＧＡ看護専門学校 ● 医師会立看護学校
10:05～11:20	14:05～15:20	**学校別説明** **（15 分×4 回）**	
11:25～12:00	15:25～16:00	**個別相談**	希望者のみ
12:00	16:00	**閉会**	

６．　参加状況：参加生徒数 258 人【第 1 部：129 人、第 2 部：129 人】　　単位：人

	参加生徒の合計				保護者	教諭	参加者合計	学校数
	1 年生	2 年生	3 年生					
中学校	0	0	26	26	24	1	51	12
高校	27	59	146	232		0	232	30
合計				**258**	24	1	**283**	42

7．　参加者アンケート結果

1）対象：参加した中・高校生の 258 人

2）回収状況：回収数 254（回収率 98.4%）

3）集計結果

（1）回答者の内訳　　単位：人

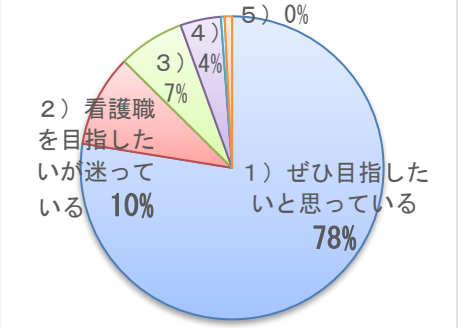
中学生	高校生
25	229

（2）進路希望

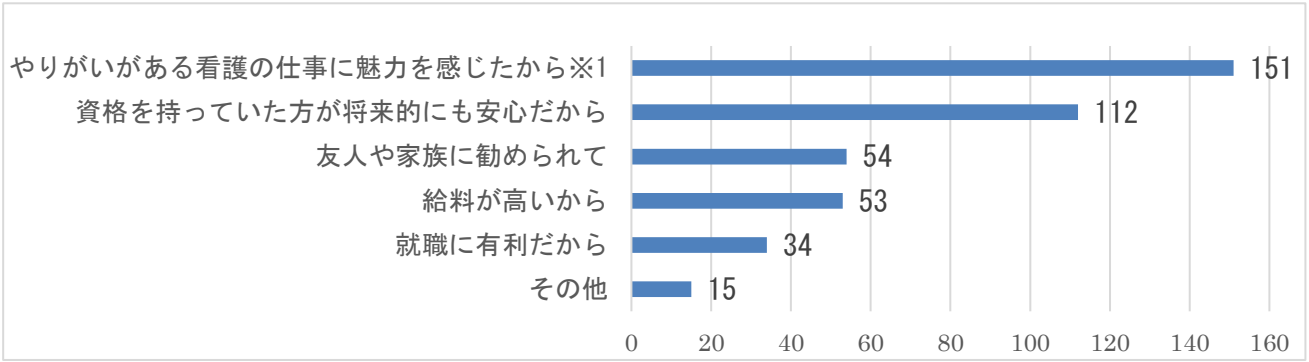
①現在の希望進路について（n＝254）単位：人

	回答数
1）ぜひ目指したいと思っている	197
2）看護職を目指したいが迷っている	25
3）決まっていないが看護職に関心がある	18
4）看護職以外の進路を目指している	11
5）まったく決まっていない	1
無回答	2

図 1．現在の希望進路



②看護職をめざす理由＊複数回答　（①で 1）2）と回答した 222 人が対象）単位：人



※1：「やりがいがある看護の仕事に魅力を感じたから」の理由についての自由記載

（　）は類似意見の数。キーワード別に分類して記載

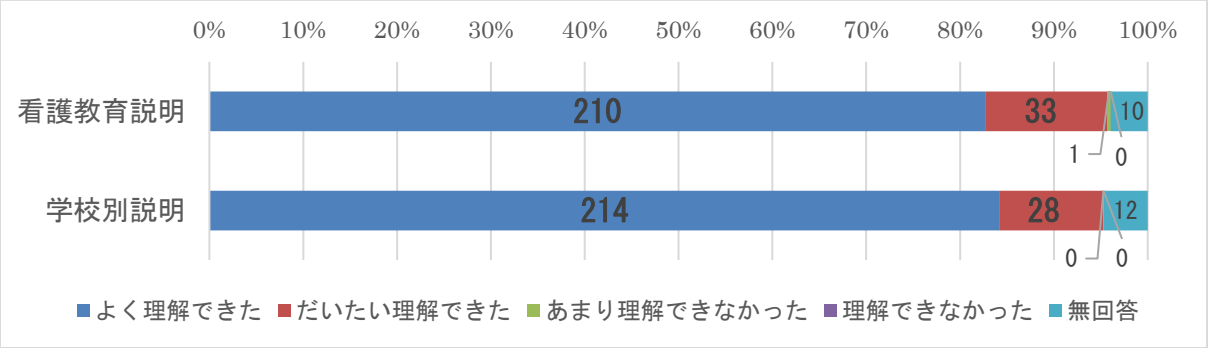
キーワード：人
・人を助けられるから（15）
・人の役に立てるから（12）
・人の命を預かる仕事だから（11）
・人に関わることができて、支えたり助けたりすることのできる仕事だから（3）
・人の心を支えられるから（2）
・人の人生を充実したものにできる手助けができるから
・人のお世話をする仕事だから
・人から頼られ、信用されたら自分もうれしいから
・人の健康に関われるから
・人と直接かかわって自分が笑顔にできる仕事だから
・人を助けることのすばらしさを、自分も感じてみたいし、小さい頃からなりたい職業だったから
・色々な人と関りコミュニケーションをとったり、人を元気にしたりできる
・迷っている人を助けたいから

キーワード：患者
・患者さんの一番近くで献身的なサポートをする仕事だから（10） ・多くの患者さんや家族と関り、感謝されるから（8） ・患者さんの笑顔を見ることができるから（6） ・患者さんが回復するのを見届けることができる仕事だから（2） ・精神的にも患者さんを支えられるから（2） ・患者を救う手助けをすることができるから ・患者さんに寄り添うことができるから ・患者さんと向き合いたいと思ったから ・毎日違う患者さんと接して、自分の成長を感じる事ができるから
キーワード：経験・体験、家族が看護職
・（自分や家族の）入院・通院した時の経験（15） ・看護職の家族（祖母・親・兄弟）や知り合いの姿を見て・話を聞いて（12） ・看護体験に参加して（3）
キーワード：コロナ禍
・コロナ禍で患者に寄り添い、命がけで医療現場で働いている看護師の姿を目にしたことで自分も世の中の役に立てる人材になりたいと考えた（5） ・コロナ禍で看護職が不足しているため
キーワード：保健師・助産師
・保健師として地域の人々の健康を守ることがとても大切な仕事だと思った（2） ・（保健師を目指している）赤ちゃんからお年寄りまで人の一生をサポートできる仕事なのでやりがいがあると感じた ・助産師のような命の誕生をサポートできる唯一無二の職業にひかれたから ・出産の手助けをしたり、妊婦さんの心と体のケアをしたいから（2） ・お産が好きだから
その他
・看護師は、体のケアだけでなく、心のケアもして患者さんの命も救えると思ったから（3） ・ドラマを見てやりがいがありそうだと思った ・小さい子供が好きだから ・地域の人に寄り添って仕事ができ色々な人の役に立てるから ・ずっと仕事ができるから ・自分の目で見て自分のしたころがわかる職業だと思った ・自分の手で助けられるから ・災害看護に興味があるから ・今後の日本社会を考えたとき最も重要な事の１つに入るのではないかと感じ、ぜひ学びたいと感じたから ・救急センターで働きたいと思っているから ・きついけど楽しいと思うから ・看護師がいないと病院が成り立たないから ・かっこいいから ・福祉を学び多職種について学ぶことができたから ・医療の仕事に魅力を感じているから

（３） プログラムについての評価

プログラムの「看護教育説明」、「学校別説明」の 2 項目について 4 段階評価を行った。

n=254 （人）



（４） 看護進路説明会に対する感想※【　】は類似感想の数

良かった、参考になった

- たくさんの学校の話が聞けて良かった（比べて聞くことができた、参考になった、細かい情報を知ることができた）【121】
- ネットやパンフレットだけではわからない事や不安に思っていたことが知れた【11】
- 行きたい学校の様子、学習内容が聞けてよかった【8】
- わかりやすかった、丁寧に説明してくれた【8】
- オープンキャンパスにいけないこともあったので、直接話が聞けたことがよかった【3】
- 在校生の学生の声を聴くことができてよかった【3】
- 個別相談で詳しい話が聞けてとても参考になった
- 近くで話を聞くことができて、わかりやすかった
- 学校の進路ガイダンスでは聞けないことが聞けてよかった
- 受験料などの詳しい話が聞けてよかった

気持ちの変化

- 話を聞いて看護師になりたいという気持ちが強くなった【18】
- 行きたい学校が見つかった（決まった）【8】
- 進路のことをもっと考えようと思った【8】
- （進路は決まっていないが）もっと看護に興味をもった、看護を視野に入れたい【4】
- オープンキャンパスに行ってみたいと思った【3】
- 志望校に行きたいという気持ちが強くなった【2】
- 高校卒業後の生活や進学した時の不安が少しなくなった
- 県内の学校は考えていなかったが、学べることがあった
- 宮崎で就職したいという気持ちが強くなった
- 志望校に少し迷いが出た。半日かけて聞く価値があってすごくよかった

気づき

- 看護をどのように学ぶのかわかった【2】
- 自分の知らない看護の仕事の部分を知ることができた
- 看護を目指すには覚悟が必要だと思った

要望・感想

- こういった機会はとてもありがたい
- もっと在校生の声を聞きたかった
- 勉強は大変そうだけど、楽しそうだなと思った
- 映像での説明がわかりやすかった

（５）ふれあい看護体験について

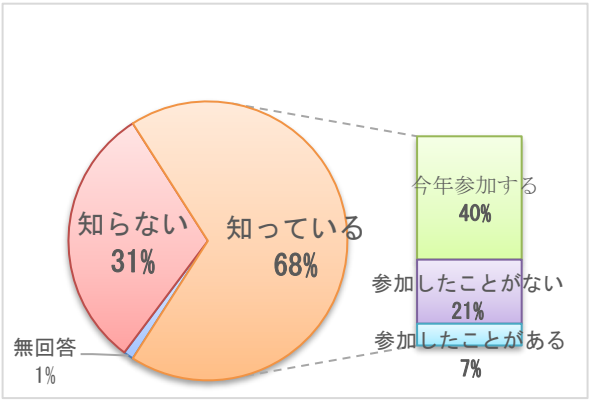
①ふれあい看護体験の認知度　n＝254

ふれあい看護体験を知っている	173
ふれあい看護体験を知らない	78
無回答	3

②ふれあい看護体験の参加について　n＝173

参加したことがある	18
参加したことがない	53
今年参加する	102

図２.ふれあい看護体験の認知度



８．　まとめ

看護進路相談会は、平成 6 年より始まり今年で 27 年目を迎えた。（昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催中止）

今年度は、新型コロナ感染の拡大状況を踏まえ開催時期を 7 月とし、さらに感染症対策を考慮し、2 部入替制の定員（120 名）を設け、看護進路相談会単独での開催とした（令和元年はみやざきナース Today と合同開催）。会場は、利便性のよい宮崎市民プラザ（4 階　ギャラリー）で行った。

開催案内は、県内高校と市町村教育委員会を通して、県内の中学校に案内を行った。申し込み締め切り前には定員に達し、入場を生徒のみ（中学生は保護者同伴可）とし参加人数を調整した。結果、中学校 12 校、高校 30 校より 283 名の参加があった。昨年度開催中止となったことも影響したのか、定員を上回る申し込みには、イベントの関心の高さが伺えた。また、参加者の 88%は、すでに「看護を目指す」生徒の参加であった。

開催内容は、看護教育に関する説明と学校別の説明会とし、ブース訪問促進のためシールラリーを開催した。プログラムについての 4 段階評価では、9 割以上が「よく理解できた」「だいたい理解できた」と回答した。また、感想では「たくさんの学校の話が聞けて良かった」と好評であった。

日本看護協会は、「少子高齢化が進む中で、現在の看護師国家試験の合格者数『約 5.5 万人』をキープしていくためには、2030 年には 18 歳人口の 18 人に 1 人に、看護の仕事を選択してもらう必要がある。」と、人材確保に関する目標値を打ち出している（2020 年度 都道府県広報担当役員会議より）

本県においても若年層を対象とした看護人材確保事業である「看護の心普及事業」を強化し、魅力ある職業としての看護職のイメージ醸成、若年層への情報発信の強化に努めていきたい。

【当日の様子】

受付、スタンプラリー交換所

「看護教育について」:宮崎県福祉保健部　医療薬務課　看護担当　副主幹　鴇　香織　氏

マスコミ２社が取材

個別相談の様子

学校別説明会の様子：在校生とオンラインでつながったり、スライド資料を使って各校工夫していました。